よびごえ

因速寺機関誌

VOL, 139



大人になるとは、「苦しめられる」ではなく、「苦しめる」ようになることかも知れない。「苦しめられる」は、苦しめる相手（事象）によって「苦しみ」がもたらされると思っている。その相手がいなくなれば苦しみもなくなると思っている。つまり、「苦しみ」の原因は相手にあり、自分ではない。そう思うと、「苦しみ」が起こる要因が相手に依存される。しかし、「苦しめる」は、たとえ相手から与えられる「苦しみ」であっても、「苦しめられる」と被虐的にはならない。「苦しみ」を「苦しみ」として引き受け、味わう余裕が生まれている。この世を生きる限り「苦しみ」がなくなることはない。「四苦八苦」とは、そのことを言っている。「蜘蛛の糸」のお話で、地獄に堕ちた犍陀多は、他ならぬ自分自身のことだった。しかし、地獄から這い上がろうとしていた時の犍陀多と、糸を切られて地獄へ舞い戻って行った犍陀多は違っていた。這い上がろうとしていた犍陀多は、「苦しめられる」存在だったが、地獄へ舞い戻っていった犍陀多は「苦しめる」存在になっていた。「苦しめられる」と「苦しめる」は似ていて、まったく違う。犍陀多は知ったのだ。「苦しめる」ものの正体が「貪欲」だと。それから彼は「苦しめる」存在へと翻身した。

未だ「死」を知らず ゆえに「生」を知らず

武田 釋定光（住職）

■「死」は生理的なものでなく、「意味」である■

これを読んでいる貴方は、まだ死んではいない。つまり、まだ「死」を体験してはいない。そうであるのに、「死」を知っていると、思っている。「死」を知ってはいても、まだ「死」を体験したことはない。貴方が「死」を体験したときには、「ああ、これが死ぬことなのか」と認識できる生理機能が停止しているから、「死」を、〈ほんとう〉には知ることができない。

つまり、貴方は「死」を〈ほんとう〉には知らないのだ。知らないにも関わらず、貴方は、「死」を知っていると思っているのはなぜだろうか。

それは「死」を、他者から学んだからだ。つまり、「身内の死」や「芸能人の死」や「友人の死」などを通して、「死」を学んだのだ。もし貴方が、「死」を学ばなければ、貴方は「死」を知ることはなかった。

そんな馬鹿な話はあるか、と思われるかも知れない。「死」は生理的なことであって、それを学ぼうが学ぶまいが、そんなことは無関係に、歴然としてあるものだと。しかし、どうもそうではないらしい。

これは私がお葬式で経験したことだ。三十代のお母さんが亡くなり、お別れの「お花入れ式」をしているとき、彼女の娘（幼児）が、周りの大人から、「お母さんに、バイバイして」と促されたのだ。そのとき、彼女は棺の中のお母さんに向かって、楽しげに、「バイバイ」と手を振ったのである。

これはいったい、何が起こったのだろう。もし人間が「死」というものを知っているのであれば、おそらく泣き喚き、号泣するはずではないか。そうなるはずなのに、なぜ彼女は泣かずに、ニコニコと母に向かって手を振れたのか。それは彼女が、「死」ということを、まだ学んでいなかったからに違いない。

「死」が、年齢を問わず、誰もが感じ取れる生理的な現象であれば、彼女は泣いたに違いない。号泣しなかったということは、やはり、「死」は「意味（意識）」の問題と言うことになる。

■他の生物には「生」も「死」もない

そうは言っても、人間以外の、すべての生き物には「死」があるじゃないか、とおっしゃるかも知れない。その意見に対して、私は、人間以外の生き物には、「死」は存在しないと答えたい。

鳥や魚や猫やネズミには、「死」は存在しない。ネズミの「死体」を見て、人間は、「ネズミが死んでいる」と言うことはできる。しかし、それは人間が見ている限りに言えることであって、ネズミ自身が言っていることではない。

つまり、鳥や魚や猫やネズミ自身は、「死」を学べないから、彼らには「死」は存在しないのと同じだ。あくまで、人間の「死

を知っている」という眼で見ているから、「死」が「客観的に」、そこにあるように見えるだけだ。彼ら自身には、「死」はない。そうなってくると、「死」の裏側にある「生」とは何か。私たち人間は、「生きている」ということを分かったことにしているが、果たして「生きている」ということは、どういうことなのか。

私たちが「生きている」と言えるのは、実は「死」を学んだからではないのか。初めから「生」を知っていたわけではなく、「死」を学ぶことを通して、初めて「生」を知ったのだ。そうなると、「生」と「死」は、同じ現象の裏表ではないか。

つまり、鳥や魚や猫やネズミは、「生きている」のでも、「死んでいる」のでもない。彼ら自身は、「生」も「死」も知らない。「生」と「死」は、人間だけが知っている、特殊な「意味」だったのだ。

私は「生きている」ということをすでに分かったことにしてきたが、果たして、これはどういうことなのだろうか。私たちが知っている「生」は、必ず「死」で終わる。周りのひとを見て学んだことは、そういう結論だ。しかし、それは〈ほんとう〉か。

■生を「幸」と見る眼が、死を「不幸」と貶める

死ぬということは、一人称では体験できないものだ。確かに、年齢を重ねれば、肉体は衰え機能を失っていくだろう。しかし、それは「死」ではない。私が、そして人類が体験できないにも関わらず、「死」と意味づけている何かに過ぎない。「死」は、人間だけに与えられた特殊な「意味」である。

さらに悪いことは、人間、つまり、「生者」が「死」をマイナスイメージで貶めていることだ。「生者」が見る「死」は、「暗く、冷たく、寂しく、悲しい」という感情に結びついている。「死」の暗いイメージの責任は、「死者」にあるわけではなく、あくまで「生者」の意味づけだ。なぜ「生者」は「死」を、そのように暗いイメージで受け取るのか。

それは「生者」が欲望を叶えることを「幸せ」と考えているからだ。「生者」から見た「死者」は、二度と欲望を叶えることのできない可哀相な存在ということになる。この「生者」の眼が、「死者」を哀れな存在へと貶める。「生者」は、まさか、自分が「故人」を哀れな存在に貶めているとは、夢にも思わない。しかし、阿弥陀さんは叫んでおられるのだ。「生者」のこの価値観こそが、「不幸」を生んでいるのだと。突き詰めれば、この価値観は、他者だけでなく、他ならぬ自己自身にも当てはめられる。

■親鸞の言う「往生」とは

結局、「生者」の、「欲望が叶えられれば幸せ、叶えられなければ不幸」という価値観が、「死」をマイナスイメージに貶めていたのだ。

親鸞も、それを知っていたから、「念仏は浄土に往くためのものか、地獄へ往くためのものか、私は知らない」（『歎異抄』）と言ったのだろう。「浄土」が「幸」で、「地獄」が「不幸」と考えているのは、欲望（貪欲）だと見抜いていたのだ。

それでは、親鸞の言う「往生」とは何か。それは死んでから「浄土」へ往くわけでも、「地獄」へ往くわけでもない。「いま・ここ・私」を、丸ごと阿弥陀さんに放擲することである。

放擲しているのだから、往くための目的地を、私が云々する必要がない。むしろ、云々しようとする「思い」が阿弥陀さんによ

って奪い取られてしまう。こうなると、「やがて死ぬだろう」という思いも「幻想」だと教えられる。

それを『歎異抄』は、**「いささか所労のこともあれば、死なんずるやらんと、こころぼそくおぼゆることも、煩悩の所為なり」**（第九条）と言っている。「所労」とは、病気のことだ。ちょっと病気でもすれば、このまま死ぬのではないかと不安になるのも、煩悩が引き起こすことであり、煩悩の悪戯なのだと言う。

小生も、大腸憩室炎を何度か患ったので、この不安はよく分かる。やはり、この煩悩（貪欲）は絶大な力を持っているので、人間の努力や心掛けで打ち消すことはできない。

■「煩悩」と「自分」が分離される

まあ、「こころぼそくおぼゆる」ときは、「こころぼそく」あればよいのだ。それしか自分には感じられないのだから。それが「ありのまま」なのだから。ただ、その都度、「こころぼそくおぼゆること」が、「煩悩の所為」だと教えてくるもののあることを忘れてはならない。それが阿弥陀さんだ。

そのように教えられることで、初めて、「自分」と「煩悩」とが分離される。「煩悩」と「自分」を混同すると、「自分」は「煩悩」に飲み込まれてしまう。そこを阿弥陀さんに分離してもらうと、「煩悩によって煩わされる自分」が誕生する。

「自分」が「こころぼそく」思っているのではない。「煩悩」によって、「こころぼそく」思わされているだけだと分かる。「自分」とは、「煩悩」が自由に動き回る運動場みたいなものだ。だから誰も止めることはできない。ただ、「自分」と「煩悩」が分離されて、初めて「自分」は、「煩悩」から解放される。

漫画ワンピースとお経

清水　理紗子（神奈川県横浜市）

皆さんは、「お経」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか？

私は「三千大千世界」というのを一番最初に思いつきます。「三千大千世界」の文言は、祖母の家でお経を読むさい、一番最初のお経に出てきます。

これは、私の大好きな『ONE PIECE』という漫画に登場する「海賊狩りのゾロ」の必殺技の一つです。ゾロは、三刀流の剣士で、「三千・大千・世界」という技を使います。

そのため、お経でこの文言が出てくると私の中ではゾロが刀を振るっています。

今回の寄稿にあたり、「三千大千世界」の意味を調べてみました。

「三千大千世界」は、仏教において宇宙を表す言葉です。中国の古典『淮南子』によれば、宇は空間、宙は時間です。また、「阿弥陀仏」の阿弥陀を調べてみると「限りない光・限りないいのち」という意味があります。その「光」とは空間を、「いのち」とは時間を表すもの。「阿弥陀」の一言が、無限の空間と無

限の時間を表していることから、阿弥陀仏そのものが宇宙と考えることができます。

『ONE PIECE』の海賊狩りのゾロがその必殺技「三千・大千・世界」をくり出すとき、「阿・弥・陀」って意味を唱えていると考えると、また『ONE PIECE』の読み方も変わってくるなぁと思うのです。ゾロに斬られた敵は、斬られた時にはすでに敵でなく、成仏していると考えると、、、。

『ONE PIECE』の主人公はモンキー・D・ルフィです。「海賊王に俺はなる！」がキャッチコピーです。どんな海賊王になるのか？　その夢の果ては今まだ隠されています。阿弥陀様は、もともとはどこかの王国の王だったと聞きました。それがある日、みんなを極楽浄土へと救うために出家したそうです。その時のキャッチコピーが「救済王に俺はなる！」だったと考えると、『ONE PIECE』を読むときの楽しみが、お経の唱えるときの楽しみが、また一つ増えました。

【追記】

ONE PIECEでなぞ多きラスボスはイム様、と呼ばれています。イムを半角にしてみましょう。ｲﾑ、仏になります。これからもONE PIECEと仏教の関係から目が離せません。

■清水さんは、山下厚子さんのお孫さんで、お彼岸などのお参りのときに、度々お会いしている。それで、今回、執筆をお願いしたという経緯だ。ところで、小生は、漫画『ONE PIECE』のことを少ししか知らなかったので、ウィキペディアで情報を得てみた。「尾田栄一郎による日本の少年漫画作品」、「海賊王を夢見る少年モンキー・D・ルフィを主人公とする、『ひとつなぎの大秘宝（ワンピース）』を巡る海洋冒険ロマン。」、「国内累計発行部数は二〇二二年時点で日本の漫画では最高となる四億一千万部を突破している。」などとあった。この物語の中で、ロロノア・ゾロが敵を斬るとき、「一大・三千・大千・世界！」という台詞を口にするそうだ。これもSNS情報だが、「『三千大千世界』は仏教の世界観で、広大無辺の世界を指します。須弥山を中心とした世界を一世界とし、これが千集まったものを小千世界、さらにこれが千集まったものを中千世界、さらにそれが千集まったものを大千世界と呼びます。」とあった。これらを考えると、尾田さんは漫画を書く上で、仏教文献をヒントにされたのだろう。夜空に煌めく満天の星を見るとき、「三千大千世界」のイメージが訪れて来る。『仏説阿弥陀経』には、ガンジス川の数ほどの諸仏の国々が説かれ、無限に近い諸仏の国々が展開する。私は、それらの国々がバラバラに存在するのではなく、重なり合っていると、秘かに思っている。それを〈一人一世界〉と名づけている。例えば、一つの部屋に十人のひとが居れば、十の世界がある、というイメージだ。大雑把に見れば、一部屋なんだから、それは一つの世界の中に十人がいるだけじゃないかと考える。しかし、それは「大雑把」な見方で、「厳密」に見れば、一人に一つの世界があり、十の世界がある。これが「唯一無二の存在である私」が生きることのできる世界だ。自分が、大勢の中の一人ではなく、唯一無二であることを回復する世界観である。世界は〈一人〉の中にあるのだ。

住職

得度式を受式しました!!

得度とは？

得度は、仏教における僧侶となるための儀式です。開祖である親鸞聖人が9才で得度したことに倣い、9才から得度することが可能です。今回は、住職の孫が9才になりましたので、本山・東本願寺（京都）でお母さんと一緒に得度式を受けて来ました。



得度考査

おめでとう！



得度というお経の試験があります。これが本当に大変で難しく、この試験に合格して初めて、得度を受式する資格を得ることができるのです！

法名

釋志縁（しえん）　武田 志縁

釋尼明瑞（みょうずい）　武田 瑞希

武田志縁くんから一言

どうしてこんなことしなくてはならないのとおもいながらも、一年間お経の練習をしました。からかわれるのが嫌だったクリクリ頭にもなれましたが、クーラーのないご本山では、死にそう～でした。

２人から
一言ずつ感想を
もらいました♪



武田 志縁くん

武田瑞希さんから一言

①親子で1年間お経を覚えて試験に至る迄の思い

今までに聞く機会はありましたが、自身で発声するとなると、初めての音や節の使い方に、親子共々とても苦戦しました。なぜ俺ばかり！と息子は涙することもありました。私も因速寺として挑むことに凄くプレッシャーが大きかったように思います。

②志縁くんのお衣姿を見てどう感じましたか？

いつかは得度式を受けてもらうのだと、頭の片隅にはありましたが、気がつけば9歳。あんなに小さかった息子がお衣を纏い、私の前をしっかりと歩き、法名を授与される姿を、静寂な御本堂で後ろから見ておりました。私が育てたつもりになっている時もありましたが、あぁ、こうやって阿弥陀様にお育ていただいているのだなと、大きくなった背中を見て感じました。

③京都（ご本山）の得度式に家族で臨めたこと

初めて本山に出向き、手を合わせ心が引き締まりました。これまで周りにお力添えをいただき、無事に得度式を終えることが出来て、ホッとした気持ちが大きいです。得度式の全ての行程が終わりにさしかかり、不意に涙が溢れそうになることがありました。この気持ちは何であったのか、正直今でもよく分かりません。あの時の思いを心に問いながら、これからも精進して参ります。

ノーメイク
なので
はずかしいです♡



武田 瑞希さん

因速寺 創建四百年を記念して
『因速寺物語』を発行いたしました。

因速寺は、昨年二〇二三（令和五）年に創建四百年を迎えました。記念として『因速寺物語』という名の記念本を発行いたしました。これまでの因速寺を支えて下さったご門徒様やご先祖様、皆様のことを想いつつ、今までの因速寺の歴史が詰まった渾身の一冊(66頁)です。どうぞお手に取ってゆっくりお読みください。



＊ご入用の方はお知らせください。
冥加志1冊500円+送料210円です。
数量限定ですので、お早めに。

元旦初参り
因速寺 修正会（しゅしょうえ）

1月1日(水) 午前10時半～(受付 10時)

お勤め・新春法話・宴(甘酒・辛酒)・新春ビンゴ大会

冥加志 おひとり1000円

一年の始まりを阿弥陀さんの前から初めませんか？
阿弥陀さんはあなたのお越しをお待ちです！

ニュース【news】

New!

住職新刊本発売



実費冥加金５００円

「死」の根本原因は、誕生（生）なのだ。「死」の条件は、老化・病気などとたくさんあるが、原因は誕生（生）以外にない。そうなると、人間は「死」ぬために生れてきたとも言い得る。そう思うと、日々の生活は無駄に満ち溢れてる。この世で、どんなことをしたとしても、すべては「死」に帰す。「死」に帰すことを、「無駄」だと考えれば、そういうことになる。そんなとき、「沈香も焚かず、屁もひらず」という言葉が頭をよぎった。意味は「特によいところもなければ悪いところもなく、平々凡々であることにいう。」（『広辞苑』第七版）だ。それだけなら、大したインパクトもないのだが、「『沈香も焚かず、屁もひらず』の人生でよいのか？」と問いかけられると、「宗教的問い」になる。『仏説阿弥陀経』の「於汝意云何」（汝が意において云何）とお釈迦さんが舎利弗に向かって投げかけた「問い」として聞こえてくる。「お前はどう思っているのか？」と問われて、初めて「汝としての自己」に目覚まされる。

◆六組聞法会◆

テーマ：『南無阿弥陀仏　人と生まれた意味をたずねていこう』

講師　今泉温資師

第一回　２０２４年12月21日（土）会場：因速寺

第二回　２０２５年２月15日（土）会場：光圓寺
（東京都港区虎ノ門三の二十三の十）

各回 午後2時～5時　（研修冥加金　千円）



雑言雑語

今年も無事に因速寺報恩講を円成することができました。朝から門徒役員方のお手伝いに助けられ、約七十名様の門徒の皆様のお陰で法要を執り行うことができました。私の報恩講は横浜別院の報恩講に始まり、自坊、那珂市の阿弥陀寺様、本山の報恩講、川崎市の光明寺様へと続きます。他のお寺さんの報恩講への出仕依頼がある中、一つ一つ丁寧にとは心がけているのだが、今まで「これで完璧」と思った事は一度もない。これは阿弥陀さんからの試練ではないのだろうか？と思う。一生で一度きりの報恩講に全身全霊で挑んでいるかと。毎年の事ではないぞと、ましては准堂衆徒になり、責任の重大な役を任せられることが増えた。緊張の連続である。毎座毎座反省点があり、できなかった自分を反省し、復習するようにしている。資格を取るということは責任があるということだと思う。准堂にならなかったら、研修会も無いままにどんなお勤めをしていたのだろうかとゾっとする。それは住職方の声明を聞いたときに「このままではまずい」と思ったからだ。味があるお勤めとオリジナリティーがある声明は全く意味合いが違う。私も初めて声明を習った時に和讃を読んで「こんなに色気があっていいんだ」と思うほど、色気のある伸びやかな声明に感動した。私もそんな先生になりたいと思う。

釋定志

表紙画題

『いのち、粛々と』

武田美輪（坊守）

『よびごえ』一三九号
発行所　因速寺（真宗大谷派 本山 東本願寺）
〒136-0074 東京都江東区東砂１の４の１０
℡(03) 3644-0986 FAX(03)3648-4391
Email info@insokuji.com
HP https://insokuji.com
編集／発行　武田 定光 Takeda Jyouko
発行日二〇二四（令和六）年十二月十五日
Copyright 1990 INSOKU-JI Printed in Japan